

JICA プロジェクト研修生受け入れ報告

～インドネシア保健省より視察～

日時：2024年6月17日(月)9:30～11:30

研修生：インドネシア保健省(10名)

同行者：国立感染症研究所実地疫学研究センター 主任研究官 福住 宗久 先生

広島県感染症・疾病管理センター(CDC) センター長 桑原 正雄 先生(他5名)

昨年に引き続き、JICA プロジェクト研修生の受け入れを行ないましたので報告いたします。インドネシア国内では、現在、広島県CDCのような感染症管理・対策グループ構想が検討されています。このたび、JICAプロジェクトの一環である「インドネシア感染症サーベイランス能力強化トレーニング」として、インドネシア国内で保健行政に携わる10名が日本国内の研修に招待され、6月3日より各地で研修を受けた後、6月17日に実際の検査現場を知る目的で当検査センターに来所されました。当検査センターの研修では、検査センター概要と感染症検査説明をスライドを用いて行ないました。特に新型コロナ PCR 検査については流行時にどのような運用を行い、地域医療に貢献してきたかを説明し、終了後の質疑応答では活発な意見交換が行われました。また、検査室の見学を行い、今年5月に完全稼働した検体搬送ライン、細菌検査の同定で使用している質量分析器や新型コロナ PCR 検査のデモンストレーションを行い、非常に高い関心を示されていました。



<研修生の感想(研修を終えて)>

このたびは研修にお招き頂き、ありがとうございました。保健省の職員として臨床検査の重要性が理解でき、またインドネシアと日本との制度の違いも認識できましたので、今後に生かしていきたいと思っております。特に質量分析器は導入を検討したいと感じました。このたびは貴重な時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。



<広報委員> 石田 啓 / 吉田 英里子 / 水谷 亜紀 / 石田 有里

*ウェブサイトでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>